

第30回

日本医学学会総会

2019
中部

医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～

第30回 日本医学学会総会 2019 中部が、2019年4月27日(土)～29日(月)の3日間、名古屋国際会議場/名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場、いずれも愛知県名古屋市)を会場に行われた。「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」というテーマの下、技術革新がもたらすこれからの時代の医学・医療の姿を探る機会となった。

The 30th General Assembly of
the Japan Medical Congress 2019 Chubu



4つの柱を設けて学術講演プログラムを構成

わが国最大級の医学系学術集会である日本医学会総会は、日本医学会と日本医師会が協力して4年に一度開催している。1902（明治35）年に第1回が開かれてから120周年という節目を迎えた今回、名古屋大学医学部長、同大学医学部附属病院院長などを歴任した齋藤英彦氏が会頭を務め、テーマには「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」が掲げられた。わが国の医学・医療は今、大きな変革期にある。ゲノムや再生医療、人工知能（AI）、ロボットなどの技術革新により最先端技術が日常臨床に広がる一方で、超高齢・人口減少社会が進み、社会保障制度の改革など、将来を見据えた医療環境の整備が求められている。このような現状を踏まえ、わが国の医学・医療のあり方を考える機会となるようプログラムが企画された。

また、第30回日本医学会総会2019中部の開催に当たり、健康長寿社会の実現に向けて「健康社会宣言2019中部」が策定された。この宣言では、①未来の医療につながる基礎・臨床医学研究の推進、②多様な社会構成に対応できる医療環境の整備、③多様化する医療人の育成、配置、労働環境の整備、④国境の垣根を超えた医療の推進、の4つの柱が示された。学術講演のプログラムは、この宣言に関連し、基本構想として4つの柱「柱1 医学と医療の新展開」「柱2 社会とともに生きる医療」「柱3 医療人の教育と生き方」「柱4 グローバル化する日本の医療」で構成された。



ネームカードの発行は顔パスチェックイン（顔認証）を採用



健康長寿社会の実現には技術革新が重要と訴えた齋藤会頭の会頭講演



「第30回 日本医学会総会 2019 中部」の基本構想

また、今回の日本医学会総会では、ノーベル賞受賞者3名の講演を聴講できる貴重な機会に恵まれた。初日4月27日には、2014年のノーベル物理学賞受賞者の天野 浩氏による開会講演「健康長寿社会を支えるトランスフォーマティブエレクトロニクス」が行われた。また、最終日4月29日には、2018年のノーベル医学生理学賞受賞者の本庶 佑氏による記念講演「がんを免疫力で治す」、2012年のノーベル医学生理学賞受賞者の山中伸弥氏の閉会講演2「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」が設けられた。



サクソ奏者の浜崎 航氏によるオープニングアクト



技術革新のための企業との交流や人材育成について実例を挙げて説明した天野氏の開会講演